

氏名 _____

学籍番号 _____

次の10の文章の正誤を示し、正しければ番号に○を、誤っている場合には、その誤った個所に二重の取消線を引きなさい (10分間ミニテストなので理由まで書かなくても良いが理由を十分考えること)。

- 01 主たる債務者の債務の承認は、保証人に対する関係でも主たる債務の消滅時効を中断する。これに対して、連帯保証人の保証債務の承認は、主たる債務の消滅時効を中断しない。
- 02 保証債務については、さらに保証人を立てる副保証ができる。副保証による債務は、主たる債務に対する保証ではないから、主たる債務が無効であっても影響を受けない。
- 03 判例によれば、債務者から委託を受けた物上保証人には事前求償権がある。
- 04 YがAのXに対する3000万円の債務につき有効に保証したところ、AがXに対して2000万円の貸金債権を有し、YもXとの未履行売買契約によりXに対し800万円の代金債権を有していた。いずれの債務も弁済期にある場合、Yは、Xの保証債務の履行請求に対して、相殺の抗弁を主張して200万円を支払えば足りる。
- 05 XがYから委託されてYのAに対する3000万円の債務につきAとの間で書面による保証契約を締結し、Yに事前の通知をして主たる債務全額を弁済し、事後の通知も行った。YがXの事前通知前にAに対する反対債権1000万円を取得しているも、事前の通知に対してXに何の返事もしなかったYは、Xの3000万円の求償請求に対して、相殺による1000万円分の減額を主張できない。
- 06 AはBに対する貸金債権についてYに保証させた。AがBに対する貸金債権をXに譲渡して、内容証明郵便でBにのみ通知した。譲渡を知らずにAに対して弁済したとすれば、YはXからの支払い請求を拒める。
- 07 売主の保証人の保証債務は、売買契約が解除されれば、売主の債務が遡及的に消滅するため、消滅する。
- 08 期間の定めのない貸借契約において生じる借借人の債務を期間や額の限定をせずに保証した者が死亡すれば、保証契約は終了する。
- 09 主たる債務者の6000万円の債務につき、A・B・Cが負担部分を平等として連帯保証をした場合、3000万円を弁済したAは、B・Cに対して1000万円ずつ求償できる。
- 10 YがAに依頼されてXとの間で保証契約を書面で締結したところ、主たる債務を生じたAX間の契約は、XがAを強迫して無理に結ばせたものであると判明した。通説によれば、Xの支払請求に対して、Yは、Aが取り消すか否か態度を決めるまでは支払いを拒絶することができる。